

第2学年 生活科 ESD 学習指導案

橋本市立三石小学校

深 泰憲

(1) 単元名

「つくって あそぼう」

(2) 単元の目標

- ① 必要でなくなった物をすぐに捨てるのではなく、新たなものに生まれ変えて、再利用の仕方を考えようとする力を育てる。
- ② 動く仕組みや、形などを自ら考え、工夫しながら、作り直すなどを繰り返す、おもちゃ作りをすることによって、物を再利用する上での可能性の大きさを感ずる。
- ③ 廃材を生まれ変えさせようという思いや、願いをもっておもちゃに作りをすることによって物を大切にすることを育てる。

(3) 単元について

・ 教材観

本校では、エコキャップ運動や、空き缶のリサイクル、給食で飲んだ牛乳パックのリサイクル、バザー活動などの活動を通して、ものを大切にする精神を育てる。

本学習は、身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことを目指す。試行錯誤しながらよりよく動くものに作り変えて行く過程で、身近にある自然や、物が自分の手で別のものに生まれ変わらせることができるということに気づき、身近にある自然の不思議さ、物のおもしろさや物として扱うことのできる可能性の大きさに触れてもらいたい。

・ 児童観

普段から、エコキャップ運動や、空き缶のリサイクル、給食で飲んだ牛乳パックのリサイクル等の活動を通して、それらの物を大切にし、必要でなければ他の物に生まれ変えようという意識はできている。しかし、活動対象の物以外はそれほど大切にしようという意識ができていない。例えば、消しにくい消しゴムや、まだ長さのある鉛筆、形やプリントが飽きた筆箱など、まだ使えても自分が必要でなければ、すぐに捨ててしまう。

・ 指導観

身近な自然の中からは、落ちている枝や葉、木の実などを利用し、身近にある物の中からは、食品トレイや、ティッシュの箱、トイレットペーパーの芯、ペットボトルなど生活から出たいらなくなったものを利用する。おもちゃを作る際にも、無駄なゴミが出ないように指導する。

・ ESD の観点

ゴミだと思っていたものが、自分の手によっておもちゃとして新たないのちが吹き

生まれ、自分自身や人を楽しませることができるものになる。このような、体験を通して、生活の中で自分が必要でなくなった物も、すぐに捨ててしまうのではなく、もう一度本当に必要でないのかを考え直してもらいたい。さらに、必要でなければ、別の物に生まれ変えさせようという意識をもてるようになってもらいたい。

(4) 評価規準

①知識技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
○すぐに捨てるのではなく、再利用の仕方を考えようとする。	○動く仕組みや、形などを自ら考え、工夫しながら、作り直すなどを繰り返し、おもちゃを作っている。	○ 廃材を生まれ変えさせようという思いや、願いをもっておもちゃに作りをしようとしている。

(5) 単元展開の概要 (10 時間)

主な学習内容	学習への支援	◇評価・備考
1. 給食で飲んだ牛乳パックで「ぴよんぴよんガエル」を作る。	○普段リサイクルしている牛乳パックで、おもちゃを作ることができるということを体験してもらう。	◇身近ないらなくなった物で、おもちゃを作ることができることに気づき、これからのおもちゃ作りに意欲を持っている。
2. 給食で飲んだ牛乳パックで「こま」を作る。	○ただ作るだけでなく、おもちゃとして、よく回るこまを作るためには、牛乳パックをどのように工夫したらよいのかを考えさせる。	◇自ら工夫しよく回るこまをつくらうとしている。
3. 家や学校の周りの自然から集めた廃材から、どのようなおもちゃを作るのかを考える。	○自由に作りたいおもちゃを想像するのではなく、廃材の形や大きさに合ったおもちゃを考えさせる。	◇廃材を生まれ変えさせようという思いや、願いをもっておもちゃ作りをしようとしている。
4. 実際におもちゃを作ってみる。	○無駄なゴミが出ないように、廃材を最大限に活用させる。	◇再利用の仕方考えようとしている。

<p>5. 作ったおもちゃを、クラスで発表する。</p>	<p>○遊び方や、工夫した点を発表させ、友達の発表から自分とは違った考えや、面白いアイデアに気づかせる。</p>	<p>◇友達の発表から、自分とは違った考えや、面白いアイデアに気づくことができている。</p>
<p>6. 作ったおもちゃを一年生に紹介し、そのおもちゃで遊んでもらう。</p>	<p>○再利用したおもちゃで遊んでもらう喜びを感じてもらおう。</p>	<p>◇再利用したおもちゃの良さを伝えることができている。</p>